

**平成30年度  
自己評価報告書の概要**

令和元年5月31日

**呉竹鍼灸柔整専門学校**

# 目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1
基準 1 教育理念・目的・育成人材像 .....	2
基準 2 学校運営.....	3
基準 3 教育活動.....	4
基準 4 学修成果.....	5
基準 5 学生支援.....	6
基準 6 教育環境.....	7
基準 7 学生の募集と受入れ .....	8
基準 8 財務 .....	9
基準 9 法令等の遵守.....	10
基準 10 社会貢献・地域貢献.....	11

# 教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	平成30年度重点目標	重点目標の達成状況・評価	平成31年度重点目標
<p>I 教育理念 伝統医療教育の質向上とその振興に努め、伝統医療を通じて人々の保健衛生福祉に寄与するとともに、伝統医学のさらなる発展及び普及・啓発に貢献することを教育理念とする。</p> <p>II 教育目標 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師及び柔道整復師として十分な知識・技術・臨床力を身につけ、柔軟な思考力を持った全人的な医療を施すことができる懐の深い医療人を育成する。</p> <p>III 育成人材像 (1) 医療人としての人格を備え、患者中心の医療を実践できる人材 (2) 他職種と連携・協働し、地域医療に貢献できる人材 (3) たゆまぬ好奇心と探求心を持って自己研鑽に努め、広く社会に貢献できる人材</p>	<p>1. 就職支援体制の構築 学生の主体的な就職活動を支援するため、キャリア計画を立案し、職能学校として出口教育までを確実に支援するキャリア計画を立案するとともに、学生に対しては積極的な就職指導を行うことにより、卒業時就職率100%を目指す。</p> <p>2. 事業計画・予算に基づく学校運営 新カリキュラムや新制度への対応、さらに将来的な第三者評価に対応していくため、事業計画・予算に基づく学校運営を浸透させ、PDCAを着実に実行する体制を構築する。</p> <p>3. 医療人としての人間形成と臨床教育の強化 改定カリキュラムにより、倫理観の醸造やコンプライアンスの遵守、相応しい患者対応など人間力の形成がより求められるようになったことから、職業倫理の授業や学内外の臨床実習の授業を通して、医療人としての人間形成を育む教育に取り組む。また、学外臨床実習施設との連携をさらに強化し、臨床教育の中身の充実を図るとともに、インターンシップを継続して実施する。</p>	<p>1. 就職支援体制の構築 キャリア計画における3年間の全体的な枠組みを構築し、具体的な就職指導の方法について検討を進めている。</p> <p>2. 事業計画・予算に基づく学校運営 前年度の課題を踏まえ、平成31年事業計画を立案し、理事会に提出し承認された。前年度の課題については、自己点検自己評価を通じて改善を図ることとした。</p> <p>3. 医療人としての人間形成と臨床教育の強化 新カリキュラムにおいて、実習教育や倫理教育を通じて、医療人としての資質を高める教育内容とした。</p>	<p>(1) 継続目標 ①就職希望者の卒業時就職率100%の達成 ②国家試験合格率100%の達成 ③退学率5%以内の達成 ④入学定員充足率80%以上の維持 ⑤学校全体の満足度向上 ⑥エコ推進（資源・経費等削減）</p> <p>(2) 当期目標 ①新制度（高等教育負担軽減）への対応 ②柔整科附属施術所の患者受入体制の整備 ③Windows10への移行対応 ④在校生向けゼミの検討 ⑤サークル活動の奨励及び募集 ⑥公開講座の実施 ⑦人間総合科学大学との教育連携を通じた学位取得制度導入</p>

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、理念等に基づき、伝統医療を通じて人々の健康の保持増進及び疾病・障害の治療を担うことのできる「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師、柔道整復師」を育成するために、知識、技術、態度といった基本的臨床能力の修得に加え、変化する社会環境・社会構造に対する問題解決力、多様な社会ニーズ・患者ニーズに対応できる臨床力を涵養するとともに、医療従事者に必要な倫理観、使命感、ホスピタリティー等の人間力を高め、患者貢献を实践できる人材育成を目指している。</p> <p>これらの教育理念、目的、育成人材像、教育方針は教務規程に明記しており、学校案内パンフレットやホームページ等を利用し、広く周知を図っている。</p> <p>本校は、業界団体、学会、学校協会と教育活動等において連携することで、業界の動向やニーズの把握に努めるとともに、それらを教育現場にフィードバックすることにより教育の質の向上を目指している。</p> <p>中期的な将来構想においては、教育の質の担保を図るために第三者評価の受審を計画しており、そのために必要な諸規程の整備及び内部統制の浸透に努めていくことを中期的な目標に掲げている。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【1-1】理念・目的・育成人材像</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか</li> <li>3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか</li> <li>4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか</li> </ol> </div> <p>○設置するすべての全学科において「職業実践専門課程」の認定（平成 26 年 3 月 31 日・文部科学省告示第 133 号）を受けている。</p>

## 基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学園の運営は、寄付行為に基づき設置法人の理事会にて運営方針を決定している。姉妹校を含む各学校の運営は、それぞれの学校の教育目標を達成するために、理事会の承認を得た事業計画に基づき学校運営が為されている。</p> <p>毎月開催する校長会では、学校運営における重要事項を審議・決定するほか、月次の運営報告において姉妹校と情報共有を図りながら教育活動を展開している。本学園は、同一の医療専門課程を設置する3つの学校から構成されているため、姉妹校間の交流を通して教職員の専門性や人材資源を効果的に活用しやすい組織環境となっている。</p> <p>本校の運営においては、行事・業務等を円滑且つ適切に遂行するために、各部署の責任者から構成される担当責任者会議や毎週開催する教職員の全体ミーティングを通して、行事・業務等の進捗管理を行っている。意志決定システムについては、文書決裁規程に基づき、原義書により決裁過程を明らかにしている。</p> <p>人事・給与に関する規程は整備されているが、新しい人事制度の導入に向けて、今後見直しが必要である。同時に、評価者及び被評価者の人事評価研修を実施し、試験運用を行っている。</p> <p>情報システム化については、学園内にVPNを構築し姉妹校間のネットワークを整備するとともに、会計システム、成績管理システム、学生募集クラウドシステム、求人情報システム等を導入している。これらのセキュリティ対策については、ウイルス対策ソフトの導入に加え、インターネットの出入口に専用のセキュリティ対策ゲートを設置し、学内外からの攻撃を監視するとともに、情報漏洩及び防疫の対策を施している。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【2-2】 運営方針</b></p> <p>1 理念等に沿った運営方針を定めているか</p> <p><b>【2-3】 事業計画</b></p> <p>1 理念等を達成するための事業計画を定めているか</p> <p><b>【2-4】 運営組織</b></p> <p>1 設置法人の組織運営を適切に行っているか</p> <p>2 学校運営のための組織を整備しているか</p> <p><b>【2-5】 人事・給与制度</b></p> <p>1 人事・給与に関する制度を整備しているか</p> <p><b>【2-6】 意思決定システム</b></p> <p>1 意思決定システムを整備しているか</p> <p><b>【2-7】 情報システム</b></p> <p>1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか</p> </div> <p>○設置校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京医療専門学校 ・呉竹鍼灸柔整専門学校 ・呉竹医療専門学校</li> </ul> <p>○附属施設（専門部署）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東洋医学臨床研究所 ・呉竹学園教育センター</li> <li>・呉竹学園臨床教育研究センター ・Kuretake 塾</li> <li>・教育戦略プロジェクト ・呉竹メディカルクリニック</li> <li>・コンプライアンス委員会 ・研究倫理委員会 ・危機管理委員会</li> <li>・創立 100 周年記念プロジェクト</li> </ul>

## 基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育活動は、本校の教育目標を達成するために、教育方針及び育成人材像に基づいて行われ、課程毎に教育課程編成委員会を開催し、授業科目や教育活動について外部の意見を活用しながら、業界ニーズとリンクするように適宜見直しを行っている。また、教育目標、教育方針及び育成人材像は、「学校生活の手引き（学生便覧）」に明記し、教育内容についてはシラバスに明示している。</p> <p>本校では、国家試験全員合格を目標にした教育レベルを設定し、定期試験、進級試験及び卒業試験等において学生個々の習熟度を把握し、合格の基準に達しない場合は補習、補講、個別面談等でサポートを行っている。その結果、毎年全国屈指の国家試験合格実績を残している。万が一、国家試験に不合格となった場合でも、授業を再聴講できる聴講生制度（無料）を利用できるほか、国家試験対策に特化した既卒者向けの Kuretake 塾（有料）も併設しており、合格に向けた着実なフォロー体制を敷いている。成績評価については、学則及び教務規程の規定に基づき行い、進級及び卒業の認定にあたっては、教務会にて審議し決定するとともに、その過程及び結果については議事録に保存している。</p> <p>教員の資質向上の取り組みについては、学生による授業評価アンケート及び学生満足度調査の実施を通して、教育活動に関する課題の把握に努めるとともに、組織的な FD 活動を通して教員の能力開発、指導力向上を図っている。</p>	<p><b>【3-8】目標の設定</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか</li> <li>2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか</li> </ol> <p><b>【3-9】教育方法・評価等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか</li> <li>2 教育課程について外部の意見を反映しているか</li> <li>3 キャリア教育を実施しているか</li> <li>4 授業評価を実施しているか</li> </ol> <p><b>【3-10】成績評価・単位認定等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか</li> <li>2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか</li> </ol> <p><b>【3-11】資格・免許の取得の指導体制</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか</li> <li>2 資格・免許取得の指導体制はあるか</li> </ol> <p><b>【3-12】教員・教員組織</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 資格・要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>2 教員の資質向上への取組を行っているか</li> <li>3 教員の組織体制を整備しているか</li> </ol>

## 基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職に関しては、就職希望者の卒業時就職率 100%を目標に、学生の主体的な就職活動を支援するため、キャリアガイダンス及び企業説明会等を開催している。その一方で、最終学年では就職指導よりも国家試験対策への指導が中心となっているため、学生の主体的な就職活動を促進できていない面もある。このため、学生指導の一環として、初年次から就職に対する意識付けを行うとともに、職場見学会への参加を推進し、在学中に希望の就職内定を得られるように指導方法を見直すこととした。</p> <p>資格取得については、国家試験合格率 100%を目標に掲げ、授業、試験、補習等を通して国家試験対策を行うことで、毎年全国屈指の合格率を誇っている。平成 30 年度国家試験については、あん摩マッサージ指圧師 98.1%、はり師 98.7%、きゅう師 98.76%、柔道整復師 90.98%と、いずれも全国平均を上回る成果を修めた。</p> <p>卒業生の社会的評価については、統計的なデータとして把握するに至っていないが、校友会組織「呉竹会」や就職先、実習先との連携、卒業生の取材等を通して、卒業生の評価や実態の把握に務めるとともに、卒業生台帳等で情報の更新管理を行っている。</p>	<p>【4-13】 就職率 1 就職率の向上が図られているか</p> <p>【4-14】 資格・免許の取得率 1 資格・免許取得率の向上が図られているか</p> <p>【4-15】 卒業生の社会的評価 1 卒業生の社会的評価を把握しているか</p>

## 基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職支援は、キャリアガイダンス・就職相談会の開催、求人案内、進路状況調査等を通して実施している。しかし、就職活動は学生の自主性に委ねられている面もあるため、今後は就職指導の観点から、学生の主体的な就職活動を早期に促進していくための方策を検討し、実施していくこととした。</p> <p>中途退学については、成績不良、修学意欲の低下、奨学金停止等が要因になっていることが多いことから、早期に学力を把握し、必要に応じて面談・補習を行うとともに、授業料の分納や学費減免策の拡充、学習意欲を高めるための卒業生によるキャリアガイダンスの実施など多方面から対策を講じているが、平成30年度の退学率は全体で7.2%という結果になった。退学者の半数以上が1年生であることに着目し、入学直後のオリエンテーションにて目標の共有化などについてクラスごとにワークショップを開催し、学習面だけでなく学校生活全般において孤立化させないための対策を講じることとした。</p> <p>学生相談に関する支援については、各科各学年に担任、副担任を置き、さらに複数の教員で個別相談に応じられる体制をとっている。学費や奨学金、学校生活、就職等に関する相談は事務局にて相談窓口を設置している。経済的支援については、独自の奨学制度のほか、特待生制度、授業料減免制度を導入して学費負担軽減策を講じている。健康面の支援については、健康診断及び結核検診を毎年実施し、ケガや体調不良があった場合には保健室又は附属施術所にて対応している。遠隔地の学生に対しては、設備、セキュリティ、食事等が充実した提携学生寮を案内している。課外活動については、サークル活動の実施に向けて検討を開始する。</p> <p>保護者との連携では、学校情報の提供のほか、学業成績不良、欠席がちな学生に対しては、保護者と連絡をとり、必要に応じて三者面談を実施している。</p> <p>卒業生への支援では、卒後のキャリアアップを支援するため、年4回の卒業後臨床講習会を開催するとともに、校友会組織「呉竹会」の活動支援を行っている。社会人の受入体制では、働きながら通学できるニーズに応えるため、午前と午後の半日のコースを設定し、社会人入試を実施している。</p>	<p><b>【5-16】 就職等進路</b></p> <p>1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか</p> <p><b>【5-17】 中途退学への対応</b></p> <p>1 退学率の低減が図られているか</p> <p><b>【5-18】 学生相談</b></p> <p>1 学生相談に関する体制を整備しているか</p> <p>2 留学生に対する相談体制を整備しているか</p> <p><b>【5-19】 学生生活</b></p> <p>1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか</p> <p>2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか</p> <p>3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか</p> <p>4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p> <p><b>【5-20】 保護者との連携</b></p> <p>1 保護者との連携体制を構築しているか</p> <p><b>【5-21】 卒業生・社会人</b></p> <p>1 卒業生への支援体制を整備しているか</p> <p>2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか</p> <p>3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>



## 基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の施設・設備はすべて関係法令の基準に適合しており、施設・設備のメンテナンスについては、法定点検及び定期点検の結果に基づき、計画的に改修工事、設備更新を行っている。平成 30 年度には全館の照明を LED 照明に変更するための更新工事を実施した。図書は毎年度予算化し、1 万冊を目標に年間 200～300 冊ずつ拡充を図っている。</p> <p>認定規則等の改正に伴い、平成 30 年度から学外実習が可能になったことから、運用マニュアル等を整備し、学外の実習施設との連携体制を構築した。また、海外研修では、希望者を対象に、上海中医薬大学への短期留学を毎年実施している。</p> <p>防災対応では、消防計画及び危機管理マニュアルに基づき、災害時の体制を組織し、学生及び教職員に対して防災訓練を毎年実施するとともに、災害時の備蓄品の充実を図っている。また、学内の安全管理体制では、学校安全計画に基づき、校舎施設、設備、教育備品等の点検を毎学期実施し、不具合等の確認、修繕を行っている。防犯の面では、防犯カメラの設置、警備会社との連携により、リスクの低減に取り組んでいる。課題としては、危機管理マニュアルの内容が古くなってきているため、昨今のさまざまなリスク要因に対して対策していくために、危機管理マニュアルの見直しを行う予定である。</p>	<p><b>【6-22】施設・設備等</b> 1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか</p> <p><b>【6-23】学外実習・インターンシップ等</b> 1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか</p> <p><b>【6-24】防災・安全管理</b> 1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか</p>

## 基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集における高等学校に対する情報提供では、学校案内や募集要項の送付に加え、高校ガイダンスへの参加、高校訪問、学校見学の受入等を通して、学校情報や入学試験の情報の提供に努めている。学生募集の時期や方法については、専修学校各種学校協会の入試倫理規程に基づき適切に実施している。</p> <p>学生募集集活動を効果的に実施するために、ホームページ、SNS、パンフレット、チラシ、WEB 媒体、紙媒体等のさまざまな募集広報ツールを活用している。また、学校説明会では来校者アンケートを実施し、プレゼンテーションやプログラムの内容について適宜見直しを図っている。平成 31 年度からは、コンサルタントの助言を得て、魅力的な学校説明会の運営を自己開発できる体制を構築することを計画している。</p> <p>入学選考においては、入試委員会規程において選考基準を定めており、入試の判定については入試委員会の議を経て校長がこれを決定し、その結果を議事録に保存している。入試に関するデータ及び募集状況については、校長会にて定期的に報告し、次年度の募集活動計画の参考にしている。</p> <p>学納金は、県内同業他校と比較して妥当な水準となっており、経費内容に基づいた学納金となっているが、認定規則の改正に伴い平成 30 年度からカリキュラムの内容が変更されたことを受け、時間数及び単位数の増加、外部臨床実習の実施等により教育活動経費のコストアップが見込まれることから、2020 年度から新しい学納金体制を適用する予定である。入学辞退者に対する授業料等の返戻については、学則及び募集要項に規定している。</p>	<p>【7-25】学生募集活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか</li> <li>2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか</li> </ol> <p>【7-26】入学選考</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか</li> <li>2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか</li> </ol> <p>【7-27】学納金</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか</li> <li>2 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか</li> </ol>

## 基準 8 財務

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、少額のリース契約を除いて借入金無く、繰越利益金はプラスで推移しており、人件費等の固定費比率も適正な範囲であるため、中長期的に安定的な財務基盤となっている。一方で、養成施設の増加等により志願者は減少傾向にあり、今後の持続的な定員確保が課題となっている。また、養成施設認定規則等の改正に伴う経費負担の増加、施設・設備の更新計画などにより支出が増えることから、今後の財務状況について注視していく必要がある。</p> <p>予算・収支計画については、校長会及び理事会等での決定事項に基づき計画されているが、さらに精度を高めて単年度事業計画、中期事業計画と関連させて計画、執行していくことを課題としている。</p> <p>監査は法令に基づき每期実施し、理事会において監査報告を行っている。また業務フローについても見直しを図るため外部監査法人による指導を受けている。</p> <p>財務情報の公開については、情報公開規程に基づき、財務諸表をホームページに公開している。</p>	<p><b>【8-28】 財務基盤</b></p> <p>1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか</p> <p>2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか</p> <p><b>【8-29】 予算・収支計画</b></p> <p>1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか</p> <p>2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか</p> <p><b>【8-30】 監査</b></p> <p>1 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか</p> <p><b>【8-31】 財務情報の公開</b></p> <p>1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか</p>

## 基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、関係法令及び設置基準等に基づいて設置運営されており、監督官庁への年次報告、届出等の遵守に加え、監督官庁が定期的に行う学校検査や指導調査等の実査を受け、指摘や改善事項があった場合には速やかに是正し、適正な学校運営に努めている。ハラスメント防止に関する取り組みでは、ハラスメント防止規程を策定し、相談窓口を設置した。</p> <p>個人情報保護に関しては、個人情報保護規程に基づき、情報漏洩防止の観点からデータの取り扱い等のルールを策定し運用している。年々脅威化するネットセキュリティーに関しては、インターネット及び学内イントラネットの出入口を監視する装置を設置し、外部からの攻撃や情報漏洩への対策を講じている。ホームページについては、その安全性を担保するため平成 30 年度にセキュリティー認証（SSL化）を行った。</p> <p>学校評価における取り組みでは、平成 21 年から自己点検・自己評価を実施し、その結果をホームページに公表するとともに、平成 24 年からは関連業団体の有識者、企業等の役職者等の学校関係者による学校評価を行い、その結果をホームページに公表している。</p> <p>教育情報の公開に関しては、文部科学省の「専門学校における情報提供等の取組に関するガイドライン」の内容に従って、ホームページや学校案内パンフレット等で公表している。</p>	<p><b>【9-32】 関係法令、設置基準等の遵守</b> 1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか</p> <p><b>【9-33】 個人情報保護</b> 1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか</p> <p><b>【9-34】 学校評価</b> 1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 2 自己評価結果を公表しているか 3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 4 学校関係者評価結果を公表しているか</p> <p><b>【9-35】 教育情報の公開</b> 1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか</p>

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の教育資源を活用した社会貢献として、附属施術所（はり・きゅう・ほねつぎ）において年間延べ 1,500 人以上の患者を受け入れ、地域の方々の健康増進、ヘルスケアのサポートを行っている。また、毎年 5 月に開催する学園祭では、チャリティー鍼灸やチャリティーマッサージの施術イベントを開催し、伝統医療の普及啓発に取り組むとともに、学園祭の収益の一部は被災地の復興支援金として寄付している。平成 30 年度の学園祭の来場者数は 381 名で、施術イベントには 144 名の方が参加され、集まった 106,489 円の寄付金は被災地の復興支援金として日本赤十字社を通して寄付をした。</p> <p>学校の施設は、関係協会や団体等から要請があった場合には、講習会等の会場として校舎施設を開放している。</p> <p>国際交流では、毎年、上海中医薬大学との学術交流（短期留学）を実施しており、平成 30 年度は節目となる 30 周年の記念式典が現地で開催された。同年には上海中医薬大学から留学生を受け入れて、日本における伝統医療について学術交流を行った。</p> <p>ボランティア活動では、神奈川県体育協会主催の陸上競技やハンドボール大会におけるメディカルサービスステーションのボランティア活動に学生と教員を派遣している。</p>	<p><b>【10-36】社会貢献・地域貢献</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>2 国際交流に取り組んでいるか</li> </ol> <p><b>【10-37】ボランティア活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか</li> </ol>